転んでも遊べ！子どもたち！

－子どもとけがのこと－

転んで泥んこになっても、遊ぶのが子ども。時には危なっかしいことにチャレンジすることも。遊びやいろいろな体験が豊富になればなるほど、ちょっとしたけがは付きものです。よくあるけがの処置を確認しながら、子どもとけがについて考えます。

子どもの成長には、けがはつきもの

遊びに夢中で、転んだり、ぶつかったりは日常茶飯事。わざとデコボコしたところを歩いたり、ちょっと高い所から飛び降りてみることも大好き。子どもは好奇心とチャレンジ精神のかたまりなのです。楽しい経験もあれば、初めてのことや、何かに挑戦して、けがをすることもあるでしょう。体の使い方や周りへの注意のはらい方、道具の使い方などが未熟だからこそ、いろいろ失敗しながら学んでいきます。

小さなけがの体験は、大きな危険から身を守るために役立っていきます。

思いやりが育つ機会にも

けがの痛みや治療中の不便な経験は、自分の身を守る大切さを知り、他人を傷つけない配慮や、傷ついた人への思いやりが育つ機会にもなります。

遊びを見守る

けがの心配からあれこれ禁止するよりは、おおらかに見守りたいもの。しかし、防げるけがは、防ぎたい。そこで、こどもの城の遊び場のスタッフに“どんな時により注意をして見ているか”聞いてみました。

- ◆大きな年齢差がある子どもたちが同じ遊び場で遊んでいる時
- ◆小さな子どもが体格に合わない大きい遊具で遊んでいる時
- ◆夕方など、遊び疲れてきた時
- ◆幼児どうしが喧嘩を始めた時

けがをしてしまったら

遊びと背中合わせにあるけが。一番大事なことは落ち着いて対応すること。最初に何をするべきか、そのための備えなど、基本的なことを再確認しましょう。

すり傷・きり傷

①処置の前後には、石けんで手を洗う。
②泥などの汚れを水道水の流水でしっかり洗い流す。
③ガーゼで押さえて止血。
④ガーゼや救急絆創膏を貼る。
※**湿潤療法**…傷口からの浸出液を保護して皮膚の再生を図る。②の後、専用パッドなどを貼る。その後、化膿などしていないか観察する。特に顔の傷や、傷が広く汚れが取れない時は受診しましょう。

打撲・捻挫・脱臼・骨折

痛みや内出血などの程度や、子どもの様子を観察する。捻挫か骨折かわかりにくいことが多い。また、骨折と脱臼など合併していることもある。子どもは骨が柔らかいので骨全体がしなる“若木骨折”などもある。
①氷のうなどで冷やす。
②腫れや痛みが強い時は、固定して安静にし、すぐに病院へ。

歯が折れた・歯が抜けた

①口をすすぐ。出血があれば、清潔なガーゼを噛ませる。
②折れた歯は水に入れて、抜けた歯は牛乳（または自分の唾液）につけ、できるだけ早く（1時間くらい）歯医者へ。
※歯がグラグラするのが続く時も、歯医者へ。

口びるを切る・舌をかむ

①口をすすぐ。
②ガーゼで押さえて止血。
③口びるや口の周りに腫れがあれば冷やす。

いずれの場合も、応急的な処置ですので、その後の観察が必要であったり、病院への受診が必要な場合もあります。児童館などでは、保護者への連絡が必要な場合もあります。

けがの対応 日常の備えをチェック！

●近隣の病院などの情報収集

・外科・整形外科・脳外科
・口腔外科・歯科…口や歯のけがを診てもらえるところ
※児童館などでは、遊びに来ている子どもの保護者への連絡をどうするか決めておく。
また、けが人やスタッフが落ち着いて対応できる衛生的な場所の確保や、血液などに触れるので、感染防止の配慮が必要。

●救急グッズ

□救急絆創膏□医療用テープ
□滅菌ガーゼ（個別包装）□綿棒
□湿布□はさみ□包帯□三角巾
□薄手のゴム手袋□虫さされ薬
□冷却ジェルシート□とげ抜き
□爪切り□体温計
□氷・氷のう
（氷をビニール袋に入れたものをいくつか冷凍庫に入れておくと便利）
（□消毒液□リバノールガーゼ）

切り抜く保存版「しろぺでぃあ」
“けがが教えてくれること”

※「しろぺでぃあ」は、今月のテーマの“まとめ”。アート・ミュージック・サイエンスなど〔こどもの城〕の専門スタッフの知恵がつまった百科事典。

※「しろぺでぃあ」と「はかせとこどちゃん」は切り取って、ファイリングできるようになっています。

こどもの城 しろぺでぃあ no.6

けがが教えてくれること

小児保健

子どもがけがをしたら、応急処置だけで済ませるのではなく、できれば本人と話をしたり、まわりにいた子どもたちに状況を聞いてみましょう。けがが何かを教えてくれることがあります。考えられる要因を、大きく2つに分けて挙げてみました。

子ども自身について

■**「一人で？誰かと？」「何をしようとしていたの？」「何かをされたの？」**
友達との関係は？

■**「初めてチャレンジしたの？」「思い切ってやってみたの？」**
勇気や努力など、ほめてあげることがあるかも知れません。

■**「無理をした？」「あせってた？」「集中力が足りなかったかな？」「疲れてた？」**
注意をしたり、改善点を伝えたり。

■**けがや骨折が多い子**
注意力、集中力に欠ける、気持ちが不安定。その原因はどこにあるのか？ふだんからの見守り。

■**救急絆創膏を頻繁にもらいに来る子**
ほんとは甘えたいのに甘えられない。手当を通して大人にかまってもらいたいのかも知れない（心の手当）。子どもの気持ちを聞くきっかけにも。

大人や施設などについて

■**どこでけがをしたかを調べると、度々同じ所で発生していることがある**
クッションになるものをまくなど、場所の改善が必要。「ドアはゆっくりあけましょう」など、注意を促す表示を付ける。

■**大人の体制を検証する**
人手が足りなかった。事前の準備はどうだったか？チームワーク、情報の伝達がうまくいっていたかなど、ふりかえってみましょう。

けがの処置をしながら、たくさんは聞けません。落ち着いてから、ちょっと気に留めて見守ったり、考えてはいかがでしょう。

監修：小児保健部スタッフ 井口由子・宮沢純子